



BlueXPリリースノート

Release Notes

NetApp
April 23, 2024

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/bluexp-relnotes/index.html> on April 23, 2024.
Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

| | |
|--|----|
| BlueXPリリースノート | 1 |
| BlueXPの最近の変更点 | 2 |
| 管理機能 | 2 |
| Azure BLOBストレージ | 3 |
| Azure NetApp Files の特長 | 3 |
| ONTAP 対応の Amazon FSX | 4 |
| Amazon S3ストレージ | 4 |
| バックアップとリカバリ | 5 |
| 分類 | 6 |
| Cloud Volumes ONTAP | 7 |
| Cloud Volumes Service for Google Cloud | 8 |
| クラウド運用 | 9 |
| コピーと同期 | 9 |
| デジタルアドバイザー | 10 |
| デジタルウォレット | 11 |
| ディザスタリカバリ | 12 |
| Eシリーズシステム | 14 |
| 経済効率 | 14 |
| エッジキャッシュ | 15 |
| Google クラウドストレージ | 16 |
| Kubernetes | 16 |
| 移行レポート | 17 |
| オンプレミスの ONTAP クラスタ | 17 |
| 運用の耐障害性 | 18 |
| ランサムウェアからの保護 | 18 |
| 修正 | 19 |
| レプリケーション | 19 |
| StorageGRID | 20 |
| 階層化 | 20 |
| ボリュームキャッシュ | 21 |
| リリースノートインデックス | 22 |
| 管理 | 22 |
| ストレージ | 22 |
| データサービス | 22 |
| 法的通知 | 24 |
| 著作権 | 24 |
| 商標 | 24 |
| 特許 | 24 |
| プライバシーポリシー | 24 |

BlueXPリリースノート

BlueXPの最近の変更点

BlueXPプラットフォームの一部である クラウド サービス の最新の変更点について説明します詳細については、を参照してください ["リリースノート的全セット"](#) 個々のサービスごと。

管理機能

このセクションでは、BlueXPの管理機能に関連する新機能(アカウント、コネクタ、クラウドプロバイダの資格情報など)について説明します。

2024年4月22日

コネクタ3.9.39

今回のリリースのBlueXP Connectorには、セキュリティが若干改善され、バグが修正されています。

現時点では、3.9.39リリースは標準モードと制限モードで使用できます。

コネクタを作成するためのAWS権限

BlueXPからAWSでコネクタを作成するには、さらに2つの権限が必要になりました。

```
"ec2:DescribeLaunchTemplates",  
"ec2:CreateLaunchTemplate",
```

これらの権限は、コネクタのEC2インスタンスでIMDSv2を有効にするために必要です。

これらの権限は、コネクタの作成時にBlueXPユーザーインターフェイスに表示されるポリシーと、ドキュメントで提供されているポリシーに含まれています。



このポリシーには、BlueXPからAWSでConnectorインスタンスを起動するために必要な権限のみが含まれています。コネクタインスタンスに割り当てられるポリシーとは異なります。

["AWSからコネクタを作成するためのAWS権限を設定する方法"](#)。

2024年4月11日

Docker Engineの更新

Docker Engineの要件を更新して、コネクタでサポートされる最大バージョン（25.0.5）を指定しました。サポートされる最小バージョンは引き続き19.3.1です。

["コネクタホスト要件の表示"](#)。

2024年3月26日

プライベートモードリリース (3.9.38)

BlueXPで新しいプライベートモードリリースが見積もり可能になりました。このリリースには、プライベートモードでサポートされる次のバージョンのBlueXPサービスが含まれています。

| サービス | 含まれるバージョン |
|-----------------------|------------|
| コネクタ | 3.9.38 |
| バックアップとリカバリ | 2024年3月12日 |
| 分類 | 2024年3月4日 |
| Cloud Volumes ONTAP管理 | 2024年3月8日 |
| デジタルウォレット | 2023年7月30日 |
| オンプレミスのONTAPクラスタ管理 | 2023年7月30日 |
| レプリケーション | 2022年9月18日 |

この新しいリリースは、NetApp Support Siteからダウンロードできます。

- ["プライベートモードの詳細"](#)
- ["BlueXPのプライベートモードでの利用を開始する方法"](#)
- ["プライベートモードの使用時にコネクタをアップグレードする方法について説明します。"](#)

Azure BLOBストレージ

2023年6月5日

BlueXPから新しいストレージアカウントを追加できるようになりました

BlueXP CanvasでAzure Blob Storageを表示できるようになりました。BlueXPから直接、新しいストレージアカウントを追加したり、既存のストレージアカウントのプロパティを変更したりできるようになりました。 "[新しいAzure BLOBストレージアカウントを追加する方法をご覧ください](#)"。

Azure NetApp Files の特長

2024年4月22日

ボリュームテンプレートのサポートの廃止

テンプレートからボリュームを作成することはできなくなりました。この操作はBlueXP修正サービスに関連付けられていましたが、このサービスは廃止されました。

2021 年 4 月 11 日

ボリュームテンプレートのサポート

新しいアプリケーションテンプレートサービスを使用すると、Azure NetApp Files のボリュームテンプレートを設定できます。テンプレートを使用すると、容量プール、サイズ、プロトコル、VNet、ボリュームを配置するサブネットなど、一部のボリュームパラメータがテンプレートにすでに定義されているため、ジョブの簡易化に役立ちます。パラメータがすでに事前定義されている場合は、次のボリュームパラメータに進みます。

- ["アプリケーションテンプレートと、環境での使用方法について説明します"](#)
- ["テンプレートから Azure NetApp Files ボリュームを作成する方法について説明します"](#)

2021 年 3 月 8 日

サービスレベルを動的に変更

ワークロードのニーズを満たし、コストを最適化するために、ボリュームのサービスレベルを動的に変更できるようになりました。ボリュームは、ボリュームに影響を及ぼすことなく、もう一方の容量プールに移動されます。

["ボリュームのサービスレベルを変更する方法について説明します"](#)。

ONTAP 対応の Amazon FSX

2023年7月30日

Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムは、ヨーロッパ（チューリッヒ）、ヨーロッパ（スペイン）、アジア太平洋（ハイデラバード）の3つの新しいAWSリージョンで作成できるようになりました。

を参照してください ["Amazon FSx for NetApp ONTAPは、さらに3つのリージョンで提供が開始されました。"](#) 詳細については、

2023年7月2日

- 次の操作を実行できます。 ["Storage VMを追加してください"](#) BlueXPを使用してAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムに移行できます。
- **My Opportunities** タブが **My estate** になりました。ドキュメントが更新され、新しい名前が反映されます。

2023年6月4日

- いつ ["作業環境の作成"](#) では、毎週の30分のメンテナンス時間の開始時間を指定して、メンテナンスが重要なビジネスアクティビティと競合しないようにすることができます。
- いつ ["ボリュームを作成しています"](#) では、ボリューム間でデータを分散するFlexGroupを作成することで、データの最適化を有効にすることができます。

Amazon S3ストレージ

2023年3月5日

BlueXPから新しいバケットを追加できるようになりました

BlueXP CanvasでAmazon S3バケットを表示できるようになりました。BlueXPから直接、新しいバケットを追加したり、既存のバケットのプロパティを変更したりできるようになりました。"[新しいAmazon S3バケットを追加する方法をご覧ください](#)"。

バックアップとリカバリ

2024年4月4日

ランサムウェアスキャンを有効または無効にする機能

以前は、バックアップポリシーでランサムウェアの検出を有効にすると、最初のバックアップの作成時とバックアップのリストア時に自動的にスキャンが実行されていました。以前はすべてのSnapshotコピーがスキャンされており、スキャンを無効にすることはできませんでした。

このリリースでは、[Advanced Settings]ページのオプションを使用して、最新のSnapshotコピーに対するランサムウェアスキャンを有効または無効にできるようになりました。有効にすると、スキャンはデフォルトで毎週実行されます。

詳細については、次の情報を参照してください。

- "[バックアップ設定の管理](#)"
- "[ONTAPボリュームのポリシーを管理します。](#)"
- "[オブジェクトへのバックアップポリシーの設定](#)"

2024年3月12日

クラウドバックアップからオンプレミスのONTAPボリュームへの「迅速なリストア」が可能

クラウドストレージからオンプレミスのONTAPデスティネーションボリュームへのボリュームの_クイックリストア_を実行できるようになりました。以前は、Cloud Volumes ONTAPシステムにのみクイックリストアを実行できました。迅速なリストアは、ボリュームへのアクセスをできるだけ早く提供する必要がありますディザスタリカバリ環境に最適です。迅速なリストアは、フルボリュームリストアよりもはるかに高速です。クラウドSnapshotからONTAPデスティネーションボリュームにメタデータをリストアします。ソースは、AWS S3、Azure Blob、Google Cloud Services、NetApp StorageGRIDのいずれかです。

オンプレミスのONTAPデスティネーションシステムでONTAPバージョン9.14.1以降が実行されている必要があります。

これは、検索とリストアのプロセスではなく、参照とリストアのプロセスを使用して実行できます。

詳細については、を参照してください "[バックアップファイルからONTAPデータを復元します](#)"。

Snapshotコピーとレプリケーションコピーからファイルとフォルダをリストアする機能

以前は、AWS、Azure、Google Cloud Servicesのバックアップコピーからのみファイルとフォルダをリストアできました。ローカルSnapshotコピーとレプリケーションコピーからファイルとフォルダをリストアできる

ようになりました。

この機能は、参照とリストアのプロセスではなく、検索とリストアのプロセスを使用して実行できます。

2024年2月1日

仮想マシンのBlueXPバックアップとリカバリの機能拡張

- 代替保存場所への仮想マシンのリストアのサポート
- データストアの保護解除のサポート

分類

2024年4月1日（バージョン1.30）

RHEL v8.8およびv9.3 BlueXPの分類のサポートの追加

このリリースでは、以前サポートされていた9.xに加えて、Red Hat Enterprise Linux v8.8およびv9.3がサポートされます。9.xにはDockerエンジンではなくPodmanが必要です。これは、手動でオンプレミスにBlueXPをインストールした場合にも当てはまります。

次のオペレーティングシステムでは、Podmanコンテナエンジンを使用する必要があります。また、BlueXP分類バージョン1.30以降（Red Hat Enterprise Linuxバージョン8.8、9.0、9.1、9.2、9.3）が必要です。

の詳細を確認してください ["BlueXPの分類環境の概要"](#)。

監査ログ収集をアクティブ化するオプションが削除されました

監査ログ収集をアクティブ化するオプションが無効になりました。

スキャン速度の向上

セカンダリスキャナノードでのスキャンパフォーマンスが改善されました。スキャンの処理能力を高める必要がある場合は、スキャナノードを追加できます。詳細については、を参照してください ["インターネットにアクセスできるホストにBlueXP分類をインストールします"](#)。

ジドウアップグレード

インターネットにアクセスできるシステムにBlueXP分類を導入している場合は、システムが自動的にアップグレードされます。以前は、最後のユーザアクティビティから特定の時間が経過したあとにアップグレードが実行されていました。このリリースでは、現地時間が午前1時から午前5時の場合、BlueXPの分類が自動的にアップグレードされます。ローカル時間がこの時間外の場合は、最後のユーザアクティビティから特定の時間が経過したあとにアップグレードが実行されます。詳細については、を参照してください ["インターネットにアクセスできるLinuxホストにインストールします"](#)。

インターネットアクセスを使用せずにBlueXP分類を導入した場合は、手動でアップグレードする必要があります。詳細については、を参照してください ["インターネットアクセスのないLinuxホストにBlueXP分類をインストールする"](#)。

2024年3月4日（バージョン1.29）

特定のデータソースディレクトリにあるスキャンデータを除外できるようになりました。

BlueXPの分類で、特定のデータソースディレクトリにあるスキャンデータを除外する場合は、BlueXPの分類で処理する構成ファイルにこれらのディレクトリ名を追加します。この機能を使用すると、不要なディレクトリや、個人データの誤検出結果が返されるディレクトリのスキャンを回避できます。

["詳細はこちら。"](#)。

特大規模インスタンスのサポートが認定されました

BlueXPの分類で2億5,000万を超えるファイルをスキャンする必要がある場合は、クラウド環境またはオンプレミス環境で特大規模なインスタンスを使用できます。このタイプのシステムは、最大5億個のファイルをスキャンできます。

["詳細はこちら。"](#)。

2024年1月10日（バージョン1.27）

調査ページの結果に、項目の合計数に加えて合計サイズが表示されるようになりました。

[Investigation]ページでフィルタ処理された結果に、ファイルの合計数に加えてアイテムの合計サイズが表示されるようになりました。これは、ファイルの移動、ファイルの削除などを行うときに役立ちます。

追加のグループIDを[Open to Organization]として設定します。

グループに最初にその権限が設定されていなかった場合に、BlueXPの分類から直接、NFSのグループIDを「Open to Organization」とみなされるように設定できるようになりました。これらのグループIDが添付されているファイルおよびフォルダは、[Investigation Details]ページで[Open to Organization]として表示されます。方法を参照してください ["追加のグループIDを「組織にオープン」として追加"](#)。

Cloud Volumes ONTAP

2024年4月23日

Azureの複数のアベイラビリティゾーン環境でサポートされる新しいリージョン

Azure for Cloud Volumes ONTAP 9.12.1 GA以降では、次のリージョンでHA複数アベイラビリティゾーンの導入がサポートされるようになりました。

- ドイツ・ウェスト・セントラル
- ポーランド中部
- 米国西部3
- イスラエル中部
- イタリア北部
- カナダセントラル

すべての地域のリストについては、["Azureのグローバルリージョンマップ"](#)。

ヨハネスブルグリージョンが**Google Cloud**でサポートされるようになりました

ヨハネスブルグ地域 (africa-south1 リージョン) は、Google Cloud for Cloud Volumes ONTAP 9.12.1 GA以降でサポートされるようになりました。

すべての地域のリストについては、["Google Cloudのグローバルリージョンマップ"](#)。

ボリュームテンプレートとタグのサポートの廃止

これ以降、テンプレートからボリュームを作成したり、ボリュームのタグを編集したりすることはできません。これらの操作はBlueXP修正サービスに関連付けられていましたが、このサービスは廃止されました。

2024年3月8日

Amazon Instant Metadata Service v2のサポート

AWSでは、Cloud Volumes ONTAP、メディアエーター、コネクタがすべての機能でAmazon Instant Metadata Service v2 (IMDSv2) をサポートするようになりました。IMDSv2では、脆弱性に対する保護が強化されています。以前はIMDSv1のみがサポートされていました。

セキュリティポリシーが必要な場合は、IMDSv2を使用するようにEC2インスタンスを設定できます。手順については、[を参照してください](#) ["既存のコネクタを管理するためのBlueXPのセットアップと管理に関するドキュメント"](#)。

2024年3月5日

Cloud Volumes ONTAP 9.14.1 GA

BlueXPで、AWS、Azure、Google CloudにCloud Volumes ONTAP 9.14.1 General Availabilityリリースを導入、管理できるようになりました。

Cloud Volumes Service for Google Cloud

2020 年 9 月 9 日

Cloud Volumes Service for Google Cloud のサポート

Cloud Volumes Service for Google CloudをBlueXPから直接管理できるようになりました。

- 作業環境をセットアップして作成
- Linux クライアントおよび UNIX クライアント用に、NFSv3 ボリュームと NFSv4.1 ボリュームを作成および管理します
- Windows クライアント用に SMB 3.x ボリュームを作成して管理します
- ボリューム Snapshot を作成、削除、およびリストアします

クラウド運用

2020 年 12 月 7 日

Cloud Manager と Spot の間のナビゲーション

Cloud Manager と Spot の間の移動が簡単になりました。

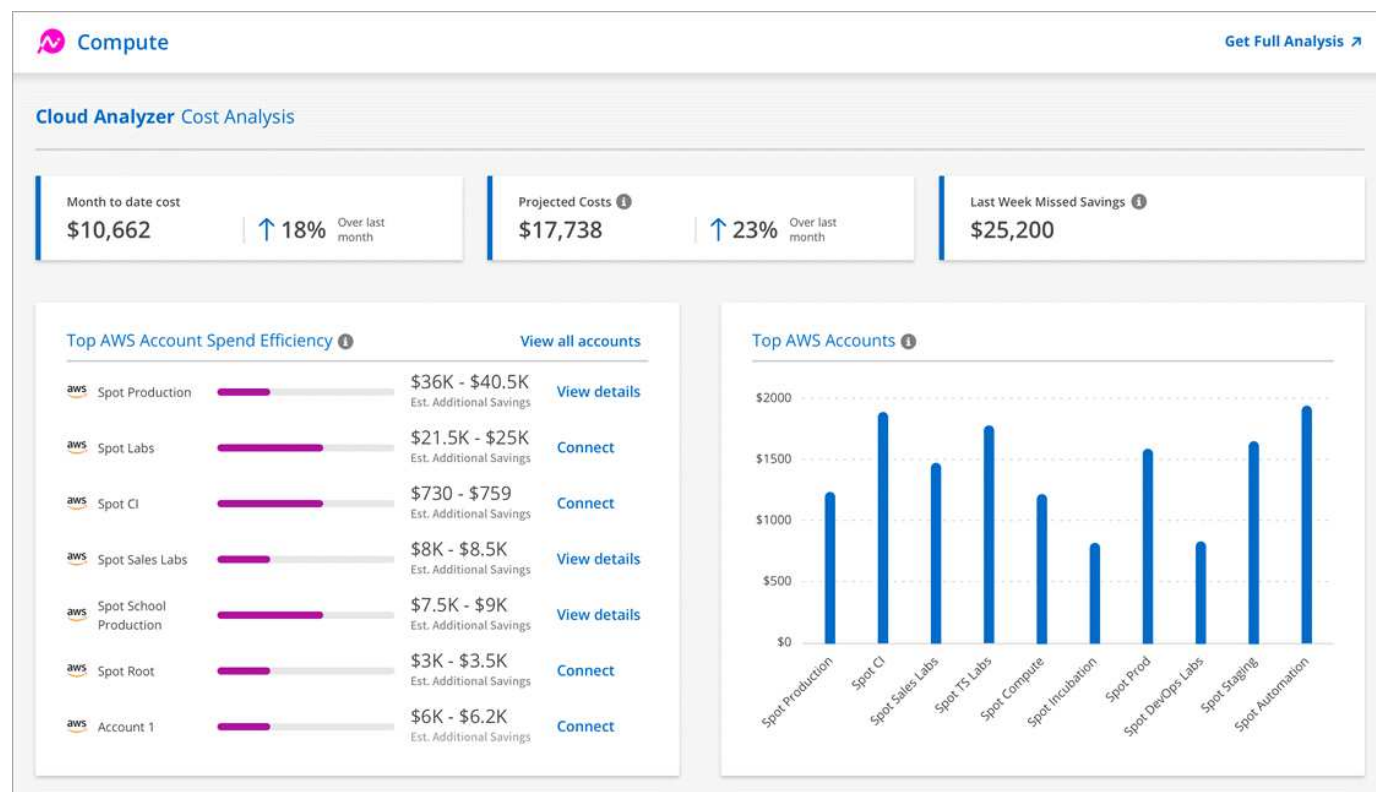
Spot の新しい「* ストレージ運用 *」セクションでは、Cloud Manager に直接移動できます。作業が完了したら、Cloud Manager の * Compute * タブから Spot に戻ることができます。

2020 年 10 月 18 日

コンピューティングサービスの概要

を活用して "Spot の Cloud Analyzer の略"Cloud Manager では、クラウドコンピューティング関連のコストを高水準で分析し、コスト削減の可能性を特定できるようになりました。この情報は、Cloud Manager の * Compute * サービスから入手できます。

"コンピューティングサービスの詳細については、こちらをご覧ください"。



コピーと同期

2024年4月8日

RHEL 8.9のサポート

データブローカーがRed Hat Enterprise Linux 8.9を実行するホストでサポートされるようになりました。

["Linuxホストの要件の表示"](#)。

2024年2月11日

正規表現でディレクトリをフィルタリング

ユーザはregexを使用してディレクトリをフィルタリングできるようになりました。

["*ディレクトリを除外*機能の詳細については、こちらを参照してください。"](#)

2023年11月26日

Azure Blobに対するコールドストレージクラスのサポート

同期関係の作成時にコールドストレージのAzure Blob階層を使用できるようになりました。

["同期関係の作成について詳しくは、こちらをご覧ください。"](#)

AWSデータブローカーでのTel Avivリージョンのサポート

AWSでデータブローカーを作成する際に、テルアビブがサポートされるリージョンになりました。

["AWSでデータブローカーを作成する方法については、こちらをご覧ください。"](#)

データブローカーのノードバージョンの更新

これで、すべての新しいデータブローカーでノードバージョン21.2.0が使用されます。この更新プログラムと互換性のないデータブローカー（CentOS 7.0やUbuntu Server 18.0など）は、BlueXPのコピーと同期では使用できなくなります。

デジタルアドバイザー

2024年3月28日

Upgrade Advisor を使用します

古いバージョンのUpgrade Advisorは廃止されました。強化されたバージョンのUpgrade Advisorを使用すると、単一のクラスターおよび複数のクラスターのアップグレードプランを生成できます。 ["アップグレードの推奨事項を表示し、アップグレード計画を生成する方法について説明します。"](#)

2024年3月15日

健康

- 健全性ワークフローにSustainabilityウィジェットが追加されました。このウィジェットには、お客様、監視リスト、サイト、グループの各レベルで推奨されるアクションの数が表示されます。アクションの数を

クリックすると、Sustainabilityダッシュボードでこれらの推奨アクションの詳細が表示されます。詳細については、[を参照してください "ストレージシステムの持続可能性を分析する"](#)。

- WellnessワークフローのSecurity VulnerabilitiesウィジェットとRansomware Defenseウィジェットが1つのウィジェットに統合され、現在はSecurity & Ransomware Defenseと呼ばれています。

健全性チェックダッシュボード

テクニカルケースのタイムラインが強化され、6カ月または12カ月間のケース履歴がすべて表示されるようになりました。

2024年2月29日

監視リスト

Keystoneサブスクリプション番号に基づいて監視リストを作成し、サブスクリプション番号または監視リスト名の最初の3文字を使用してKeystoneサブスクリプションを検索できるようになりました。

デジタルウォレット

2024年3月5日

BlueXPディザスタリカバリ

BlueXPのデジタルウォレットで、BlueXPディザスタリカバリのライセンスを管理できるようになりました。ライセンスの追加、ライセンスの更新、およびライセンス容量に関する詳細の表示を行うことができます。

["BlueXPデータサービスのライセンスを管理する方法"](#)

2023年7月30日

使用状況レポートの機能拡張

Cloud Volumes ONTAP使用状況レポートにいくつかの改善点が追加されました。

- TiB単位が列名に追加されました。
- シリアル番号の新しい_node_fieldが追加されました。
- [Storage VMs]使用状況レポートに新しい_Workload Type_columnが追加されました。
- 作業環境の名前がStorage VMとボリュームの使用状況レポートに表示されるようになりました。
- ボリュームタイプ_file_に_Primary (Read/Write) _というラベルが付けられます。
- ボリュームタイプ_secondary_のラベルが_secondary (DP) _に変更されました。

使用状況レポートの詳細については、[を参照してください](#)。 ["使用状況レポートをダウンロードします"](#)。

2023年5月7日

Google Cloud プライベートオファー

BlueXPのデジタルウォレットに、プライベートオファーに関連付けられているGoogle Cloud Marketplaceサブスクリプションが表示され、サブスクリプションの終了日と期間が表示されるようになりました。この機能強化により、プライベートオファーが正常に受け入れられたことを確認し、その条件を検証できます。

充電使用量の内訳

容量ベースのライセンスにサブスクライブしたときに課金される料金を確認できるようになりました。次のタイプの使用状況レポートは、BlueXPデジタルウォレットからダウンロードできます。使用状況レポートには、サブスクリプションの容量の詳細と、Cloud Volumes ONTAP サブスクリプションのリソースに対する課金状況が表示されます。ダウンロード可能なレポートは、他のユーザーと簡単に共有できます。

- Cloud Volumes ONTAP パッケージの使用状況
- 使用状況の概要
- Storage VMの使用状況
- ボリュームの使用状況

使用状況レポートの詳細については、[こちら](#)を参照してください。 **"使用状況レポートをダウンロードします"**。

2023年4月3日

Eメール通知

Eメール通知がBlueXPデジタルウォレットでサポートされるようになりました。

通知を設定すると、BYOLライセンスの有効期限が近づいたとき（「警告」通知）、またはすでに有効期限が切れているとき（「エラー」通知）にEメール通知を受け取ることができます。

"Eメール通知の設定方法については、こちらをご覧ください"

Marketplaceのサブスクリプション用にライセンスされた容量

Cloud Volumes ONTAP の容量単位のライセンスを表示する場合、BlueXPデジタルウォレットに、マーケットプレイスのプライベートオファーで購入したライセンス容量が表示されるようになりました。

"アカウントの使用済み容量を表示する方法について説明します"。

ディザスタリカバリ

2024年3月5日

これはBlueXPディザスタリカバリのGeneral Availabilityリリースであり、次の更新が含まれています。

- ライセンスの更新：BlueXPディザスタリカバリを利用すると、90日間の無償トライアルにサインアップするか、NetApp営業担当から入手したNetAppライセンスファイル（NLF）であるお客様所有のライセンスを使用（BYOL）できます。ライセンスのシリアル番号を使用して、BlueXPデジタルウォレットでBYOLをアクティブ化できます。BlueXPディザスタリカバリの料金は、データストアのプロビジョニング済み容量に基づいて計算されます。

BlueXPディザスタリカバリ用のライセンスのセットアップの詳細については、を参照してください。 "[ライセンスをセットアップする](#)".

すべての* BlueXPサービスのライセンス管理の詳細については、 "[すべてのBlueXPサービスのライセンスを管理します](#)".

- スケジュールの編集：このリリースでは、コンプライアンステストとフェイルオーバーテストをテストするスケジュールを設定できるようになりました。これにより、必要に応じて正しく動作することを確認できます。

詳細については、を参照してください "[レプリケーション計画の作成](#)".

2024年2月1日

このBlueXPディザスタリカバリプレビューリリースには、次の更新が含まれています。

- ネットワークの強化：このリリースでは、VMのCPU値とRAM値のサイズを変更できるようになりました。VMのネットワークDHCPまたは静的IPアドレスを選択することもできます。
 - DHCP：このオプションを選択した場合は、VMのクレデンシャルを指定します。
 - 静的IP：ソースVMと同じ情報または異なる情報を選択できます。ソースと同じを選択した場合は、クレデンシャルを入力する必要はありません。一方、ソースと異なる情報を使用する場合は、クレデンシャル、IPアドレス、サブネットマスク、DNS、およびゲートウェイの情報を指定できます。

詳細については、を参照してください "[レプリケーション計画の作成](#)".

- *フェイルオーバー後のプロセスとしてカスタムスクリプト*を含めることができるようになりました。カスタムスクリプトを使用すると、フェイルオーバープロセスのあとにBlueXPディザスタリカバリでスクリプトを実行できます。たとえば、フェイルオーバーの完了後にすべてのデータベーストランザクションを再開するカスタムスクリプトを使用できます。

詳細については、を参照してください "[リモートサイトへのフェイルオーバー](#)".

- * SnapMirror関係*：レプリケーション計画の作成時にSnapMirror関係を作成できるようになりました。以前は、BlueXPのディザスタリカバリ以外で関係を作成する必要がありました。

詳細については、を参照してください "[レプリケーション計画の作成](#)".

- 整合グループ：レプリケーション計画を作成する際に、異なるボリュームや異なるSVMのVMを含めることができます。BlueXPディザスタリカバリでは、すべてのボリュームを含めて整合グループSnapshotを作成し、すべてのセカンダリサイトを更新します。

詳細については、を参照してください "[レプリケーション計画の作成](#)".

- * VM電源投入遅延オプション*：レプリケーション計画を作成するときに、リソースグループにVMを追加できます。リソースグループを使用すると、各VMに遅延を設定して、遅延シーケンスで電源を投入することができます。

詳細については、を参照してください "[レプリケーション計画の作成](#)".

- アプリケーションと整合性のある**Snapshotコピー**：アプリケーションと整合性のあるSnapshotコピーを作成するように指定できます。サービスはアプリケーションを休止し、Snapshotを作成してアプリケーションの整合性のある状態を取得します。

詳細については、を参照してください ["レプリケーション計画の作成"](#)。

2024年1月11日

今回のBlueXPディザスタリカバリプレビューリリースには、次の更新が含まれています。

- このリリースでは、ダッシュボードから他のページの情報にすばやくアクセスできます。

["BlueXPディザスタリカバリの詳細"](#)。

2023年10月20日

今回のBlueXPディザスタリカバリプレビューリリースには、次の更新が含まれています。

BlueXPディザスタリカバリを使用すると、オンプレミスのNFSベースのVMwareワークロードを、パブリッククラウドに加えてオンプレミスのNFSベースのVMware環境への災害から保護できます。BlueXPディザスタリカバリは、ディザスタリカバリ計画の完成をオーケストレーションします。



このプレビューサービスでは、NetAppは、一般提供前にサービスの詳細、内容、スケジュールを変更する権利を留保します。

["BlueXPディザスタリカバリの詳細"](#)。

Eシリーズシステム

2022年9月18日

Eシリーズのサポート

BlueXPからEシリーズシステムを直接検出できるようになりました。Eシリーズシステムを検出すると、ハイブリッドマルチクラウド全体のデータを包括的に把握できます。

経済効率

2024年3月14日

既存の資産を運用していて、テクノロジーの更新が必要かどうかを判断する場合は、BlueXPの経済性に関するテクノロジー更新オプションを利用できます。現在のワークロードの簡単な評価を確認して推奨事項を確認できます。また、過去90日以内にAutoSupportログをNetAppに送信した場合は、新しいハードウェアでのワークロードのパフォーマンスを確認するためのワークロードシミュレーションを提供できるようになりました。

ワークロードを追加して、既存のワークロードをシミュレーションから除外することもできます。

これまでは、アセットの評価を受けて、テクノロジーの更新が推奨されるかどうかを判断することしかできませんでした。

この機能は、左側のナビゲーションの機器更改（Tech Refresh）オプションに含まれるようになりました。

の詳細については、を参照してください ["テクノロジーの更新を評価する"](#)。

2023年11月8日

今回リリースされたBlueXPの経済効率化機能には、資産を評価し、テクノロジーの更新が推奨されるかどうかを確認する新しいオプションが含まれています。このサービスには、左側のナビゲーションにある新しい機器更改（Tech Refresh）オプションのほか、現在のワークロードと資産を評価するための新しいページ、推奨事項を記載したレポートが含まれています。

2023年4月2日

新しいBlueXPの経済効率化サービスは、現在または予測されている容量が少ないストレージ資産を特定し、オンプレミスのAFF システムのデータ階層化や容量の追加に関する推奨事項を提供します。

["BlueXPの経済性に関する詳細はこちらをご覧ください。"](#)

エッジキャッシュ

2023年8月1日（バージョン2.3）

このリリースでは、に記載されている問題が修正されています ["修正された問題"](#)。更新されたソフトウェアパッケージは、から入手できます ["このページです"](#)。

2023年4月5日（バージョン2.2）

このリリースでは、以下に示す新機能が提供されます。また、に記載されている問題も修正されています ["修正された問題"](#)。

Google Cloudに導入された**Cloud Volumes ONTAP** システムでグローバルファイルキャッシュがサポートされます

Google CloudにCloud Volumes ONTAP システムを導入すると、新しい「エッジキャッシュ」ライセンスが利用可能になります。Cloud Volumes ONTAP システムの購入済み容量3TiBにつき、Global File Cache Edge システムを1つ導入できます。

["Edge Cacheライセンスパッケージの詳細については、こちらをご覧ください。"](#)

セットアップウィザードと**GFC**設定**UI**が拡張され、ネットアップライセンスの登録が実行されるようになりました

Optimus PSMが拡張され、**Edge Sync**機能が構成されます

2022年10月24日（バージョン2.1）

このリリースでは、以下に示す新機能が提供されます。また、に記載されている問題も修正されています ["修正された問題"](#)。

グローバルファイルキャッシュは、任意の数のライセンスで使用できるようになりました

これまでに必要だった10個のライセンス、つまり30 TBのストレージは削除されました。Global File Cache ライセンスは、3 TBのストレージごとに1つずつ発行されます。

オフラインライセンス管理サーバを使用するためのサポートが追加されました

オフラインまたはダークサイトのライセンス管理サーバ（LMS）は、LMSがライセンスソースを使用したライセンス検証用のインターネット接続を備えていない場合に最も便利です。初期設定時には、インターネット接続とライセンスソースへの接続が必要です。設定が完了すると、LMSインスタンスが暗くなることがあります。ライセンスの継続的な検証のために、すべてのエッジ/コアはLMSと接続されている必要があります。

エッジインスタンスは、追加の同時ユーザーをサポートできます

1つのグローバルファイルキャッシュエッジインスタンスは、専用の物理エッジインスタンス1つにつき最大500ユーザー、専用の仮想配置で最大300ユーザーを処理できます。使用可能なユーザの最大数は、それぞれ400と200です。

Optimus PSMを強化し、クラウドライセンスを構成

Optimus UI（Edge Configuration）の**Edge Sync**機能が強化され、接続されているすべてのクライアントが表示されるようになりました

Google クラウドストレージ

2023年7月10日

BlueXPから新しいバケットを追加したり、既存のバケットを管理したりできます

BlueXPキャンバスでGoogle Cloud Storageのバケットを表示できるようになりました。BlueXPから直接、新しいバケットを追加したり、既存のバケットのプロパティを変更したりできるようになりました。"[新しいGoogle Cloud Storageバケットを追加する方法をご覧ください](#)"。

Kubernetes

2023年4月2日

- 次の操作を実行できます。"[Astra Tridentをアンインストールします](#)" これは、TridentオペレータまたはBlueXPを使用してインストールしました。
- ユーザーインターフェイスが改善され、ドキュメントのスクリーンショットが更新されました。

2023年3月5日

- BlueXPのKubernetesでAstra Trident 23.01がサポートされるようになりました。
- ユーザーインターフェイスが改善され、ドキュメントのスクリーンショットが更新されました。

2022年11月6日

いつ "[ストレージクラスを定義する](#)"では、ブロックストレージやファイルシステムストレージに対して、ストレージクラスの経済性を実現できます。

移行レポート

2023年11月13日

SMB / CIFSプロトコルを使用するボリュームのレポートを作成できるようになりました。

2023年9月3日

更新されたBlueXP移行レポートサービスでは、レポートデータの更新を提供します。割り当て容量がレポートに含まれるようになりました。

2023年6月2日

新しいBlueXP移行レポートサービスでは、ストレージ環境のファイル、ディレクトリ、シンボリックリンク、ハードリンク、ファイルシステムツリーの深さと幅、大容量ファイルなどの数をすばやく特定できます。

この情報を使用すると、使用したいプロセスが在庫を効率的かつ正常に処理できることが事前にわかります。

["BlueXP移行レポートの詳細をご確認ください"](#)。

オンプレミスの ONTAP クラスタ

2024年4月22日

ボリュームテンプレートのサポートの廃止

テンプレートからボリュームを作成することはできなくなりました。この操作はBlueXP修正サービスに関連付けられていましたが、このサービスは廃止されました。

2023年7月30日

FlexGroup ボリュームを作成します

コネクタでクラスタを管理している場合は、BlueXP APIを使用してFlexGroupボリュームを作成できるようになりました。

- ["FlexGroupボリュームを作成する方法"](#)
- ["FlexGroupボリュームとは"](#)

2023年7月2日

My estateからクラスタを検出

オンプレミスのONTAPクラスタを検出できるようになりました。これには、* Canvas > My estate *から、BlueXPログインのEメールアドレスに関連付けられているONTAPクラスタに基づいてBlueXPが検出されたクラスタを選択します。

["クラスタを検出する方法については、\[My estate\]ページを参照してください"](#)。

運用の耐障害性

2023年4月2日

新しいBlueXPの運用耐障害性サービスとIT運用リスクの自動修復サービスを使用すると、システム停止や障害が発生する前に推奨される修正策を実装できます。

運用の耐障害性は、アラートとイベントを分析してサービスとソリューションの健全性、アップタイム、パフォーマンスを維持するのに役立つサービスです。

["BlueXPの運用耐障害性の詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

ランサムウェアからの保護

2024年3月5日

今回のBlueXPランサムウェア対策プレビューリリースには、次の更新が含まれています。

- 保護ポリシーの管理：事前定義されたポリシーの使用に加えて、ポリシーを作成、変更、削除できるようになりました。 ["ポリシーの管理の詳細"](#)。
- セカンダリストレージの変更不可（DataLock）：オブジェクトストアのNetApp DataLockテクノロジーを使用して、セカンダリストレージのバックアップを変更不可にできるようになりました。 ["保護ポリシーの作成に関する詳細情報"](#)。
- * NetApp StorageGRIDへの自動バックアップ*：AWSを使用するだけでなく、バックアップ先としてStorageGRIDを選択できるようになりました。 ["バックアップ先の設定に関する詳細情報"](#)。
- 潜在的な攻撃を調査するための追加機能:検出された潜在的な攻撃を調査するために、より多くのフォレンジックの詳細を表示できるようになりました。 ["ランサムウェアのアラートが検出された場合の対応の詳細"](#)。
- リカバリプロセス。回復プロセスが強化されました。ボリューム単位、ワークロードのすべてのボリューム、またはボリュームからいくつかのファイルを1つのワークフローでリカバリできるようになりました。 ["ランサムウェア攻撃からのリカバリの詳細（インシデントの中和後）"](#)。

["BlueXPランサムウェア対策の詳細をご確認ください"](#)。

2023年10月6日

BlueXPランサムウェア対策サービスは、データの保護、潜在的な攻撃の検出、ランサムウェア攻撃からのデータのリカバリを行うSaaS解決策です。

プレビュー版では、オンプレミスのNASストレージ上のOracle、MySQL、VMデータストア、ファイル共有のアプリケーションベースのワークロードと、BlueXPアカウント全体のCloud Volumes ONTAP on AWS（NFSプロトコルを使用）のアプリケーションベースのワークロードを個別に保護し、Amazon Web Servicesクラウドストレージにデータをバックアップします。

BlueXPのランサムウェア対策サービスでは、複数のNetAppテクノロジーをフルに活用できるため、データセキュリティ管理者やセキュリティ運用エンジニアは次の目標を達成できます。

- すべてのワークロードに対するランサムウェア対策を一目で確認できます。

- ランサムウェア対策に関する推奨事項を分析
- BlueXPのランサムウェア対策に関する推奨事項に基づいて、保護態勢を強化
- ランサムウェア対策ポリシーを割り当てて、主要なワークロードとハイリスクデータをランサムウェア攻撃から保護します。
- ワークロードの健全性を監視してランサムウェア攻撃からデータの異常を検出
- ランサムウェアのインシデントがワークロードに与える影響を迅速に評価します。
- データをリストアし、保存されたデータからの再感染を防ぐことで、ランサムウェアのインシデントからインテリジェントにリカバリします。

["BlueXPランサムウェア対策の詳細をご確認ください"](#)。

修正

2024年4月22日にBlueXP修正サービスが削除されました。

レプリケーション

2022年9月18日

FSX for ONTAP to Cloud Volumes ONTAP の略

Amazon FSX for ONTAP ファイルシステムからCloud Volumes ONTAP にデータをレプリケートできるようになりました。

["データレプリケーションの設定方法について説明します"](#)。

2022年7月31日

ONTAP のFSXをデータソースとして使用します

Amazon FSX for ONTAP ファイルシステムから次のデスティネーションにデータをレプリケートできるようになりました。

- ONTAP 対応の Amazon FSX
- オンプレミスの ONTAP クラスタ

["データレプリケーションの設定方法について説明します"](#)。

2021 年 9 月 2 日

Amazon FSX for ONTAP のサポート

Cloud Volumes ONTAP システムまたはオンプレミスの ONTAP クラスタから ONTAP ファイルシステム用の Amazon FSX にデータをレプリケートできるようになりました。

["データレプリケーションの設定方法について説明します"](#)。

StorageGRID

2022年9月18日

StorageGRID のサポート

StorageGRID システムをBlueXPから直接検出できるようになりました。StorageGRID を検出すると、ハイブリッドマルチクラウド全体のデータを包括的に把握できます。

階層化

2023年8月9日

階層化データを格納するバケット名にカスタムプレフィックスを使用する

以前は、バケット名を定義する際にデフォルトの「fabric-pool」プレフィックス（_fabric-pool-bucket1_など）を使用する必要がありました。バケットに名前を付けるときにカスタムプレフィックスを使用できるようになりました。この機能は、データをAmazon S3に階層化する場合にのみ使用できます。 ["詳細はこちら。"](#)

すべてのBlueXPコネクタでクラスタを検索

環境内のすべてのストレージシステムの管理に複数のコネクタを使用している場合は、階層化を実装する一部のクラスタが別々のコネクタに配置されている可能性があります。特定のクラスタを管理しているコネクタが不明な場合は、BlueXP階層化を使用してすべてのコネクタを検索できます。 ["詳細はこちら。"](#)

2023年7月4日

アクセス頻度の低いデータをオブジェクトストレージにアップロードする際の帯域幅を調整できるようになりました

BlueXP階層化をアクティブ化すると、ONTAPは無制限のネットワーク帯域幅を使用して、アクセス頻度の低いデータをクラスタ内のボリュームからオブジェクトストレージに転送できます。階層化トラフィックが通常のユーザワークロードに影響していることに気付いた場合は、転送中に使用できる帯域幅を調整できます。 ["詳細はこちら。"](#)

通知センターに「低階層化」の階層化イベントが表示されます

クラスタがコールドデータの20%未満（データを階層化しないクラスタを含む）を階層化しているときに、階層化イベント「Tier additional data from cluster <name> to object storage efficiency」が通知として表示されるようになりました。

本通知は、システムの効率化とストレージコストの削減を目的とした「推奨事項」です。これにより、へのリンクが提供されます ["BlueXP階層化サービス（TCO）とコスト削減試算ツールです"](#) コスト削減額の計算に役立ちます。

2023年4月3日

【ライセンス】タブが削除されました

BlueXP階層化インターフェイスから【ライセンス】タブが削除されました。従量課金制（PAYGO）サブスクリプションのすべてのライセンスに、BlueXP階層化オンプレミスダッシュボードからアクセスできるようになりました。また、このページからBlueXPのデジタルウォレットへのリンクもあり、BlueXP階層化サービスのお客様所有のライセンスの使用（BYOL）を表示および管理できます。

階層化タブの名前が変更され、内容が更新されました

【Clusters Dashboard】タブの名前が【Clusters】に変更され、【On-Prem Overview】タブの名前が【On-Premises Dashboard】に変更されました。これらのページには、階層化構成を追加してストレージスペースを最適化できるかどうかを評価するための情報が追加されています。

ボリュームキャッシュ

2023年6月4日

ONTAP 9ソフトウェアの機能であるボリュームキャッシングは、ファイル配信を簡易化し、ユーザやコンピューティングリソースの近くにリソースを配置することでWANレイテンシを低減し、WAN帯域幅のコストを削減するリモートキャッシング機能です。ボリュームキャッシングは、リモートの場所にある書き込み可能な永続的ボリュームを提供します。BlueXPのボリュームキャッシュを使用すると、データへのアクセスを高速化したり、アクセス頻度の高いボリュームのトラフィックをオフロードしたりできます。キャッシュボリュームは、特にクライアントが同じデータに繰り返しアクセスする必要がある場合に、読み取り処理が大量に発生するワークロードに最適です。

BlueXPボリュームキャッシングを使用すると、特にAmazon FSx for NetApp ONTAP、Cloud Volumes ONTAP、オンプレミスの作業環境向けに、クラウド向けのキャッシュ機能を利用できます。

"BlueXPのボリュームキャッシュの詳細については、[こちらをご覧ください](#)。"

リリースノートインデックス

BlueXPサービスごとにリリースノートをすべて確認できます。

管理

["セットアップと管理"](#)

ストレージ

- ["Azure BLOBストレージ"](#)
- ["Azure NetApp Files の特長"](#)
- ["ONTAP 対応の Amazon FSX"](#)
- ["Amazon S3ストレージ"](#)
- [Cloud Volumes ONTAP](#)
 - ["Cloud Volumes ONTAP のリリースノート"](#)
 - ["BlueXPでのCloud Volumes ONTAP 管理に関するリリースノート"](#)
- ["Cloud Volumes Service for Google Cloud"](#)
- ["Eシリーズシステム"](#)
- ["Google クラウドストレージ"](#)
- ["Kubernetes クラスタ"](#)
- ["移行レポート"](#)
- ["オンプレミスの ONTAP クラスタ"](#)
- ["StorageGRID"](#)

データサービス

- ["バックアップとリカバリ"](#)
- ["分類"](#)
- ["クラウド運用"](#)
- ["コピーと同期"](#)
- ["デジタルウォレット"](#)
- ["ディザスタリカバリ"](#)
- ["経済効率"](#)
- ["エッジキャッシュ"](#)
- ["運用の耐障害性"](#)
- ["ランサムウェアからの保護"](#)

- "レプリケーション"
- "階層化"
- "ボリュームキャッシュ"

法的通知

著作権に関する声明、商標、特許などにアクセスできます。

著作権

["https://www.netapp.com/company/legal/copyright/"](https://www.netapp.com/company/legal/copyright/)

商標

NetApp、NetApp のロゴ、および NetApp の商標ページに記載されているマークは、NetApp, Inc. の商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

["https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/"](https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/)

特許

ネットアップが所有する特許の最新リストは、次のサイトで入手できます。

<https://www.netapp.com/pdf.html?item=/media/11887-patentspage.pdf>

プライバシーポリシー

["https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/"](https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/)

オープンソース

通知ファイルには、ネットアップソフトウェアで使用するサードパーティの著作権およびライセンスに関する情報が記載されています。

["BlueXPに関する注意事項"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。